

深澤晟雄が教材に

「中高生のための映像教室」

2月2日 日本と将来を担う中高生に日本国憲法とその理念を伝える映像教材として深澤晟雄資料館が撮影されました。これは、中高生の先生方が社会科、道徳などの授業の場で活用でき、憲法とその考え方を広める授業を実践していく現役の先生方とともに製作し、映像教材を効果的に活用できるガイドブックも作成して、併せて販売普及するものです。



2月2日 夜8時までつづいた撮影

（弁護士伊藤眞氏、神戸大学名誉教授の浦部法穂氏の監修）

監督 戸田 誠

製作

（株）青銅プロダクション

完成予定

二〇一〇年四月

深澤晟雄村政時代

太田 祖電

私は早速、社会教育委員会に諮り、あらゆる面からの広聴活動を展開しました。その資料は膨大なものとなりました。それをまとめる段階では、素人の自分達だけでは誤りを来たすといふことで、岩手県教育委員会の社会教育主事や岩手大学の社会科学の先生に来ていただいて、これを整理分類いたしました。その結果、沢内村が僻地であることの最大の悪条件は次の三点であること、要約いたしました。

裏面(こじり)

劇映画 いのちの山河

～日本の青空Ⅱ～

県内上映日程

平泉町 3月20日(土)
①10:00 ②14:00 ③18:30
平泉文化遺産センター ふれあいホール

奥州市 3月27日(土)
①10:00 ②13:00 ③16:00
④19:00
奥州市文化会館Zホール・中ホール

紫波町 4月11日(日)
①10:00 ②14:00
サン・ビレッジ紫波

第一には余りにも雪が多過ぎる。第二には余りにも貧困である。第三には余りにも病人が多い。この三つの要因が互いに循環しながら、相乗的に作用しあい、沢内村の僻地性を積みあげていくということが分かりました。これは、何十年かかろうとも、住民一体となつてこの問題と取り組んでゆくことが、行政の基本であることを議会に報告し、更に各集会において、それへの取り組み方について話し合つていきました。

具体的に申しますと、まず、第一の「雪の問題」は、特別豪雪地帯は、岩手県59市町村の内、奥羽山脈沿いの3町村しかありませんが、その内でも、沢内村は最も雪が深いのです。普通2月から3m多い時には4mの積雪となります。積雪期間は11月から4月まで。その間馬車が通れるのは延べ20日間、後は28kmの細長い村の交通機関は一切途絶します。村びと達は家の中に閉じこもつてじつと春がきて雪の融けるのを待つばかりです。病人が村北に出ても、医師は一人、1泊2日ばかりで往診すれば、他の病人の治療が出来ないという有様で、多病多死の現状を救うためには、この豪雪に何とか対処して冬季の交通を確保することが必須の条件でありました。

次に第二の「貧困の問題」は岩手県が当時全国において最も貧困の県でしたが、その中においても、沢内村は最も貧乏な村でした。昭和30年には生活扶助を受けている家庭が125世帯ありましたが、全村1200世帯の内、10パーセント以上が、国の扶助なしには生きて行けないという悲惨な状態でした。病気になることも、貧しさのために医

者にも行けず、朽木が朽ちるように死んで行く多くの村びと達の苦しみ悲しみの深さは計り知れないものがありました。

最後に第三の「多病多死の問題」は、健康のバロメーターは、「」承知のように乳児死亡率率です。岩手県は、日本で一番乳児死亡率が高く、沢内村は県内でも最も高いグループに入つておりました。当時、千人生まれると70.5人の割合で乳児が死んで行きました。大人や老人も、豪雪のため十分な治療を受けられず、貧しさのため



子供達の健康診断

に十分な栄養や休養が取れずに病弱となつて行くといつ、三つの悪条件が相循環して、三重苦の地獄さながらの状態が続いておりました。この全国一の「悪」をどのようにして克服して行くべきか。深澤村長は、改めてその根の深さに驚くばかりでした。「この時深澤村長は次のように言いました。『豪雪 貧困 多病』という問題から目をそらして沢内村の行政はありえないし、村びとへは出来ない。まず保健

お客様との出会いから

卒論テーマに

夕方沢山の荷物を両手に抱え入ってこられました。聞けば大学の学生さん。卒論のテーマの為沢内庁舎で

説明を受け、進められて立ち寄ったとの事。すぐビデオを観て頂きその後は展示資料を観ておりました。外が暗くなりましたので帰りはどうされますかと聞きました。「夕方のバスで駅まで」との事でしたので私も同じバスに乗る予定でしたので、失礼かと思つたのですが「これも何かの御縁なので一緒に帰りましょう」と言っておりました。

2人でバス停まで行き同じバスに乗って帰りました。聞けば、あと3市町村に言つて説明を聞くとのこと。他の学生さんも同じように動いているとのこと。卒論が予定通り完成することを願いたいと思います。

行政だ。社会教育こそが保健行政の基盤と考えてくれ。住民自らが問題を掘り起して、住民自らが知恵をしぼり、住民自らが立ち上がるには、社会教育しかない。そこから始めてくれないか。」

（川口）
共済新報から抜粋